

2024年2月26日（月曜）

全労金2024春季生活闘争ニュース・第2号

～勝ち取ろう賃金改善！進めようジェンダー平等！みんなで一歩先のステージへ！～

本日は、『統一要求提出日』『一斉職場集会の開催日』です。

物価は、一昨年から上がり続けています。賃金の引き上げが物価上昇に追いつかず、消費者においては、購入する商品を見直す、外食を減らす、服装・商品の購入を控える、等に繋がっています。また、外国人旅行者を想定した商品価格は私たちには手が出せない程、値上がりし、諸外国と比較すれば、今や「日本は安い国」になっています。

今年の春季生活闘争は、「経済も賃金も物価も安定的に上昇する経済社会へとステージを転換する正念場」の闘争です。加えて、昨年の賃上げは30年ぶりの高水準と言われているのですが、実質賃金は低下を続けています。世間からは、物価上昇に追いつけない賃上げに留まっている状況と労働組合の姿勢に対して、厳しい目も向けられています。労働組合が社会から共感を得なければ、労働金庫の発展にも影響を与えます。その意味でも正念場です。さらに、全国の職場では、離職や採用不足等からくる人員不足が続いており、この状態が続けば、さらなる離職や体調不良者が発生しかねません。一方で、賃金を支払う金庫・事業体の経営環境は、超少子高齢社会やDXをはじめとするデジタル化の進展、マイナス金利の長期化がもたらす利ザヤの縮小と運用・調達への影響、異業種による業界参入等々、決して明るい状況ではありません。また、今後、マイナス金利政策が見直された場合、私たちの働き方が変わることも想定されます。

本日は、全労金2024春季生活闘争の統一要求提出日です。全労金に結集する全14単組の闘争委員会は、金庫・事業体・関連会社に「要求書」「申入書」を提出し、本格的な交渉がスタートしました。2024春季生活闘争は、こうした情勢の中で、昨年以上に厳しい交渉も想定されます。こうした情勢だからこそ、全労金「統一闘争」による共闘と、全組合員による団結が必要です。そして、労働組合を組織する16.3%の企業労使には、日本社会全体を牽引する意識を持ったうえで、短期的な視点に留まらず、「労使が協力して将来を見据える」「成長と分配の好循環が生まれる風土をつくる」「そのための労使コミュニケーションを図る」等が求められます。

2024春季生活闘争のスローガンで掲げた「～勝ち取ろう賃金改善！進めようジェンダー平等！みんなで一歩先のステージへ！～」を胸に、全労金に結集する9,000名が、昨年以上に強い思いを持って、闘いを進める必要があります。交渉の最前線にいる単組闘争委員会を支援、回答期限日までに満額回答が得られるよう力強く闘い抜きましょう。

全労金中央闘争委員会
中央闘争委員長 深見 正弘

◎全労金は、労金協会と第 185回中央労使協議会を開催しました！

2月26日（月）10時から第 185回中央労使協議会を開催し、統一要求提出日であることを踏まえ、全労金2024春季生活闘争方針の主旨を説明しました。

冒頭、全労金・深見中央闘争委員長、労金協会・西田理事長の双方から挨拶を受けた後、宮西中央副闘争委員長から主旨説明を行い、労金協会・松迫副理事長から主旨説明を踏まえた所感が表明されました。



◎セントラル労組に激励訪問しました！

中央労使協議会終了後、セントラル労組の闘争委員会へ全労金四役が訪問し、深見中央闘争委員長から「本春季生活闘争は、これまで以上に、全労金組織全体で共闘意識を持って臨む必要がある」等、激励のメッセージを伝えました。

**「労働組合の役割」「労使の社会的使命」を果たすために、
2024春季生活闘争を団結して闘おう！**

以 上

《全労金のSNSを紹介します！》

☆ 全労金HP (<http://www.zenrokin.or.jp/>)

☆ 全労金Facebook (<https://www.facebook.com/zenrokin>)



※次号は2月28日に発行します！